



大石仁美 新連載

今年はインフルエンザが大流行で、この2か月間、病児保育室開設以来の大賑わいでした。ひとつの園から同じクラスの子が同じ日に5人もやってきた日もあり、狭い部屋でお泊り保育のようなはしゃぎよう。園生活とは違う親交を深めあったようです。

他園の子も型が同じ場合は合流し、前から知っている子同士のように溶け込んでいました。熱が下がってからも3日ほど登園出来ないで、このような状況になるのです。

大人の方は、自分がうつされないように、また、他の子にうつさないようかなり気を遣い、私、バアバアは、食事づくりで疲れました。

この間、ちょっと腹がたったケースがひとつありました。発熱で保育園へ親の代わりにお迎えに行ったのですが、その園ではインフルエンザは流行っておらず、一般の風邪の子と同じ部屋に寝かせました。親からは、熱が出たようですのでよろしく、という連絡だけだったので様子をみていましたら、どんどん熱があがり、40℃に。親に報告すると、予備の解熱剤があれば使ってほしいとのこと。熱が下がると気分がよくなって遊びはじめ、そのうち親がお迎えにきました。そして帰り際にひとこと、「お父さんのインフルエンザが移ったのか

しらねえ。」ええっ。それ先に言ってよ。この親、他の子にうつさないようにという気遣いがないのがくやしい！職業は医師です。

それからは、冬に熱が高ければ、まずインフルエンザを疑えと肝に銘じました。

暇なときは、暇だなあとぼやき、忙しいときは、疲れたあとぼやきながらも、仕事があるって幸せだと思えます。今回、開設当初のことを振り返る機会をえて、支援していただいた方一人ひとりのお顔を思い浮かべながら感謝の念でいっぱいです。まだまだ頑張ります！

村本邦子

「オレンジと太陽」すなわち児童移民の調査でロンドンにきている。イギリスのソーシャルワーカーたちが、「social justice」（社会正義）への信念と高い倫理観を持って働いていることに感銘を受ける。そう言えば、『からのゆりかご～大英帝国の迷い子たち』のなかでも、マーガレットさんがイギリス政府の児童移民政策を知って「社会正義」が傷つくという表現があった。そこまで政府に失望を感じる事ができる人達を密かに羨ましく思う自分はどうなんだろう？信じるからこそ失望することができるのだ。

今朝の朝日のインタビューで、ノーマ・フールドは、「同僚たちは国が嫌になったら脱出するよと言うが、大学近辺に住む貧困層にはできない。余裕があるから『国を捨てる』などと言える。運命を共にする」とうと大げさですが、軽口はたたかないと決めました」と語っていた。証人であるとは留まることを意味する。

この春、いよいよ女性ライフサイクル研究所を退くことにした（自分の臨床は細々と続けるが）。信念が行動を形成するとも言えるが、行動が信念を形成するとも言える。願わくば、社会正義を信じられる行動を。とは言い、私に必要なのは今しばらくの沈思黙考である。

國友 万裕

この頃、「仏男子」という言葉が生まれたのだそうです。ネットに調べたところによ

ると、女性雑誌 NONNO で特集が組まれているとのことで、「趣味が一番」「自分のペースで行動したい」「恋愛は面倒くさい」「気を使いたくない」「彼女なんていらない」「一人が好き」「女の子のいると疲れる」という男の子のこたなのだそうで、思わず、嬉しくなりました。

まさしく僕はそうなんですね。といっても、僕の場合は、もう50歳ですから「仏おじさんです」けど(笑)、こういう男の人が増えているということは、僕と同類項が増えているということです。

思い切ってカムアウトしますが、僕は男の人とゲイ関係になったことはないのですが、あまり女性と付き合いたいと思わないことも確かなんです。僕は、少年の頃に女性にたくさんトラウマを負わされていて、女性恐怖症です。

こんな僕も、若い頃は、そういう自分を治そうと努力して、無理に女性と付き合いおうとしていました。でも、世間体を気にして、無理につきあおうとすると墓穴を掘るばかり。逆に女性への不信感が増幅されることになります。自己弁護させてもらおうと、これは僕が優しい、真面目な男だからなんですよ。女性に気を遣い過ぎる性格なので、付き合いながらも、疲れてしまうことのほうが多いです。女性のペースに合わせ過ぎたり、女性の立場を考え過ぎたりすると、男は女とつきあえなくなるんですよ。僕だけではなく、仏男子が増えているのは、女性を思いやり過ぎる、草食系男性が増えているからなんでしょう。

僕は、ほとんど女つけがない生活で、親密な友達は男ばかりなので、ゲイ的生活です。でも、僕の男友達は皆ゲイではないですし、僕は彼らとゲイ関係ではありません。もちろん、これから女性恐怖症が治って、女性と付き合えるようになれば、喜ばしいのですが、今の僕は、女性のいない生活に不満があるわけでもありません。独身生活を十分エンジョイしています。これからは、「僕は、仏おじさんなんです」と自称することができますね(笑)。

岡田隆介

この三月をもって、40年近く勤務した

広島市子ども療育センターを定年退職します。いい仲間と仕事に恵まれ、まさに Happy Retirement です。実は、半年以上前から次の計画を練っていました。しかし何一つ具体化することなく、年が明けてしまいました。

その頃、編集長から「バタバタ探さだけが道じゃない、じっと待っていれば向こうから飛び込んでくるものだ」とえらく格好いお言葉をいただきまして、年金をもらわずに死んでしまうのも悔しいし、ポーッと暮らす覚悟を決めたところです。

ちょうど書いていたシリーズ原稿も終わり、キリがいいのでマガジン執筆も終わらせていただきます。おつきあいいいただきありがとうございます。また新しいことが見つかれば、再開(再会)できる日が来たらうれしいです。みなさま、ごきげんよう！

北村真也 私塾「アウラ学びの森」

(<http://auranomori.com>)、フリースクール「アウラ学びの森 知誠館」

(<http://tiseikan.com>) 代表。

来年度に向け、アウラ学びの森では、不登校、ひきこもり経験を持つ若者たちのライフストーリーを語る「森の語り場」、こだわりの大人たちとこだわりの若者たちが出会う「森の出会い場」、若者の支援者たちの学び場「南丹ラウンドテーブル」の3つのセッションが展開されていきます。

古川秀明

日曜寺子屋家族塾のことを対人援助学マガジンに書かせてもらうことは、これまでの記録やまとめになるし、書きながらいろんな反省やひらめきも湧いてくるのでとてもありがたいです。

足掛け3年目を迎え、次々に新たな課題に直面しています。しかし、それも発展していくためのプロセスだと思って楽しんでいます。対人援助学会で発表する日を目標にそして楽しみにがんばります。

団士郎

3月23日から27日まで、視察でロンドンにいた。テーマはマーガレット・ハンフリーズ著「からのゆりかご」の児童移民問題。

本の中で送り出した側の団体の一つとして問題指摘をされているところと、児童移民を取り上げてトラストを設立した小さな組織。その背景にある、社会的養護の実践の歴史変遷とその深層を探るものだった。例によって、私は「からのゆりかご」には大きな刺激を受けていたが、それほど緻密に考えたこともなかった。

しかし今回、誘われて同行してみると、とても面白いことにたくさん出会った。それはイギリス社会にある事との遭遇だけではなく、それに触れることで、自分の今までの仕事の中にあつた疑問や、違和感との遭遇でもあった。

英語が駄目なので、最終日のナショナル・アーカイブス(国立資料館)に行っても、何かできるわけではなかったが、そこにある執拗な記録保存へのこだわりと、情報開示に関わるエネルギーには感心した。施設を利用する一般市民が、自身の、あるいは先祖のルーツ探しに、これほど熱心なのは首をかしげた。

かつて公務員として、利用者の情報管理や、開示請求への対応、資料の保存年限ルールなどに関わっていたのと比較してみると、とんでもない実態の違いがあることに驚かざるを得ない。

どちらが正しいとか、あるべきかということではなく、なぜこんなにも違った個人記録観を持つことになったのか。そこには大英帝国内の移住・移民が多くある事に関わっている。ここは日本とは大きく異なっている。

日本の歴史にも満州、併合時の朝鮮半島、中国残留孤児、北方領土に在住していた人々など、侵略や占領の結果生まれた断絶の運命をたどる家族の歴史物語はある。当然そこには記憶や記録問題があるに違いないが、耳にすることは少ない。

ロンドンを歩いていると、移民の国であることを実感する。

そんな中で、過去への責任の果たし方も含めて、イギリスの行っている方法は、私達の国のそれとは随分異なっている。絶対的正しさは何処にもないだろうから、自分たちはどの道筋を採用して社会を構成していつているのか、自覚しておくこと

は重要だろう。

坂口 伊都

父が亡くなって、もうじき3か月。症状が悪化してから亡くなるまでが早かったのも、自分の周りで何が起きているのか実感できないでいたように思います。父は、静岡では名が知れた人だったので、通夜には驚くほどの人が訪れていました。父とは言っても、一緒に暮らしたこともない私には、通夜を手伝う役回りもなく焼香をして立ち去りました。

父は、3回結婚をしています。2度目の結婚の時に外にできた子どもが私です。なので、私には非嫡出子というものがかつていました。3度目の結婚の際に、父は新しく妻にする人を「お前だけには紹介しないとな」と言って会わせてくれました。その人とは、父を通してのおつきあいという感じでしたが、父が亡くなってからその人と話す機会が増えました。その人は、父の事をいろいろと教えてくれました。父の事を全くと言っていいほど知らなかったのも、自分の気持ちが落ち着いていくのがわかりました。父の遺影と生前使っていた時計を譲ってくれ、やっと父が近くに感じられるようになりました。

父に感謝することがあるとすれば、この人と再婚して出会わせてくれたことかなと思います。父がこの人を愛してくれたことで、父の良さを感じられました。いっぱい辛い目にも合わせてもらいましたが、父のこの選択だけは賞賛したいと思います。

浅野 貴博

昨年末に、家族ぐるみで親しくしているイギリス人(夫)と日本人(妻)のご夫婦の家を訪れた際、イギリス人のご主人から、年始にどこかに参拝に行く予定があるのかを聞かれました。そのご主人は、何度も日本を訪れ日本の文化に興味を持っており、多くの日本人にとってお正月には初詣に行くのが習慣であることをよく知っているため、そのような質問をしてきたのですが、ヨークには神社やお寺がないのでどこにも行く予定はないと答えました。その時には、うまく英語で説明できなかったの

ですが、仮に、ヨーク周辺に神社やお寺があったとしても、参拝したいという気持ちになることは恐らくないと思います。昨年、日本の一時帰国中に、式年遷宮を控えた伊勢神宮や、京都や奈良の神社仏閣にも足を運んだのですが、それぞれが、その土地に長年に渡って根付き、様々な人々の想いが込められて続いていることを考えると、それぞれの場で身が引き締まる思いがしました。参拝するために、単に神社やお寺の形だけを整えたとしても、そうした気持ちを感じさせられることはないだろうと思います。これまでも何度か、海外の友人とお互いの宗教のことを話す機会がありましたが、土着的であり、さらに神道と仏教が分ちがたく結びついている日本人の信仰の有り様について、唯一神を信仰するキリスト教徒やイスラム教徒に、英語で説明するというのは容易なことではありません。一方で、同じ仏教を信仰しているタイやスリランカの友人と話していると、彼らの熱心な信仰心に比べ、柔軟というか、八百万の神を信仰する日本人の宗教観を説明するのも、これまた難しいものです。自分は無宗教であるとお茶を濁すこともできるでしょうが、それでも、お盆にはご先祖の魂が帰ってくるといった、多くの日本人にとっては無意識に習慣化されているような宗教観については説明がいたると思います。読者の皆さんなら、どのように説明されますか？

河岸 由里子

臨床心理士 北海道

かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

最近、言葉が出てこない。文章を書くにも、中々言葉が出てこないし、それを辞書で引くことも出来ない。悶々としてしまう。もちろん名前も出てこない。人の名前、物の名前・・・。「ほら、あれあれ」とか「あの人、あ〜何て名前だっけ。名前が出てこない〜。」と言う事が増えた。ついさっきまで話していた人まで、思い出せなかったりする。友人の精神科医から勧められて、〇〇コーヒーを飲んでみたり、米ぬかが良いと聞いて飲んでみたりしている。まだ効果は感じられない。

脳を活性化するためには運動も必要だ。水中ウォーキングを始めた時期もあったが、プールは時間がかかり過ぎて結局続かなかった。犬の散歩には行くが、老犬故、殆ど歩かないので運動にならない。継続的にできる物とを考え、ラジオ体操を始めた。これだけは何とか続けたい。後は脳トレでもするか。

私の母も、母方祖母も、認知症を患って72歳で亡くなった。何となく自分もそうなるのではと随分前から思うようになっていた。何とかその呪縛から逃れられるようにと、あれこれ試しているが、意識するからか、老化を肌で感じるようになった。今年で還暦。当たり前の老化なのかもしれないが、やりたいこともあるし、まだまだ頑張りたい。



岡崎 正明

昨日喫茶店で昼食を食べていると、後ろの席から「チャラ〜」と楽しげな音。メールの着信か何かかと思ったが、その後立て続けに鳴っている。不思議に思って振り返ると、どこにでもいそうな4〜50代のおばさまが、スマホでゲームをしていた。

店内は昼食時ということもあってにぎやか。けして「静かにしてください」という状況ではないが、それにしても会話や食器の音とは異質の電子音は、なかなか目立つものだった。

驚きと苛立ちを覚え、食事を終えると足早に店を出た。「ちょっと音を落としてもらえませんか？」いえれば理想的だが、もちろんそれもできずに。

あのおばさま1人を取り上げて「最近のオバハンは！」とか「スマホ依存が！」などと言う気はない。自分が驚くということは稀なことなわけで、つまりは大多数の人

はあんなことはしないという証でもある。ひょっとしたら聴覚障害の人で音量に気付かなかったという可能性もOではない。

だが、それにしても、と思う。ここはあんなの部屋じゃないぞ、と。みんなの空間を「共有」しているという意識が、想像力がやはり必要じゃなからうか。タバコの煙と同じで、特定の場所があってもいいのかも。喫煙所ならぬ「スマホ所」とか。

ただ最近ネットでも議論になっていた「赤ちゃんの泣き声」は、まったく種類の違うものだ。電子音や煙は大の大人がコントロールできるもの。泣き声は自然の法則。みんなで堪えるのが、社会で子どもを育てるということじゃなからうか。

P.S.皆さまからのご意見・ご感想を受け付けております。未熟者を育てると思っ
て、よかったらひと声かけてや
ってください。

buimen0412@yahoo.co.jp

三野 宏治

かつての職場の同僚にがいた。カバンの中をかき回して、鍵や財布などを探していた。探し物は探している場所から発見されることは少なく、大概は机の上や引き出しの中から発見されていた。それを見ていつも不思議に思っていたことを思い出す。あの頃は「いつもものを探している人」を確かに不思議に思っていたはずだ。

最近では私自身がその不思議な人、つまり「いつもものを探している人」になっている。正確に言うと「ものをなくす人」だ。先日水俣に調査に出かけた。インタビューを終えて、そこを辞してスーパーによってトイレを拝借しそこからも移動して食事をとった後、財布がないことに気が付いた。スーパーに電話しても届いていないという。祈る気持ちでインタビュー先に電話をすると「お預かりしています」と笑い声が返ってきた。また、帰路の鹿児島空港では帽子がなくなっていた。バスの窓口で確認してもらったところ乗っていたバスにあるという。

万事こんな感じだ。もう同僚のことを「不思議な人」とは思わない。そんなことを思ったことを反省している。なぜなら「いつも

ものを探している人」は不思議な人なんかでは決してなく、「とても困っている人」なのだから。

鶴谷 圭一

前回15号でお伝えした「子ども子育て支援新制度」は、平成27年度から開始するには遅すぎる速度ですが、徐々に細かいことが決まってきて、いまどきの幼稚園経営者はこのことで頭がいっぱいです。なんといっても幼稚園業界にとって戦後最大の変革ですからね。資金が山ほどあれば理念を実現させた良い制度になるはずですが、予定していた財源約1.1兆円が7,000億円程度しか確保できず、消費税を上げたにもかかわらず約4,000億円が足りないのが現状で、制度だけを強行すれば幼稚園も保育園も混乱と保育者の疲弊は必至です。

国の基準検討会議が行われる度に膨大な資料が内閣府のHPにアップされるので、100ページ以上のそれをダウンロードして制度のしくみをしっかり理解しなければなりません。資料を読み込んで、制度の不完全な点や、幼稚園教育にとって不利な点(幼保のシステム上の格差や、公私立の利用者負担の平等化など)を洗い出し、市レベルの運営会議でカバーしてもらうように訴えていかななくてはならないからです。行政と正面から折衝してもラチがあかないということから、市議会議員さんとの連携も各地区で動き始めました。年度末だというのに園長らしい仕事ができてなくて悩ましいこの頃です。

〔内閣府 子ども子育て支援新制度〕
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html>

会議の動画も見られます。面白いものじゃありませんが…。

原町幼稚園ホームページ

<http://www.haramachi-ki.jp>

メール osakana@haramachi-ki.jp

ツイッター haramachikinder

千葉 晃央

ミニ連載:

■私がしている文章の書き方 5 ■

私がしている文章の書き方の連載5回目です。

大きな6 手順

- ①箇条書きでいいことをかく
 - ②丁寧に膨らませて文章にする
 - ③プリントアウトをして、前後の入れ替えを考える
 - ④接続詞等、つながるように加筆
 - ⑤「です」「ます」、「である」の判断
 - ⑥音読で確認
 - ⑦黙読でも確認
- 今回は⑤「です」「ます」、「である」の判断

はじめから読み返して「です」「ます」、「である」と統一します。私は普通に書いてみるとミックスになっていることが多いです。私には「です」「ます」は柔らかく丁寧な印象、「である」は言い切るし、断言する印象があります。

また、「語るように書きなさい」というのも私の師匠からの教えです。その時には、簡単に「です」「ます」、「である」どちらかと言いつきにいい文章でも、それなりに読めることがあるように思います。明治のような昔の文章を見ると口語と文語が異なっていて、今とは全く違い、それによって当然社会も違います。語るように書くことができる喜びも感じることもあります(笑)

いよいよ最終部分の工程に入っていきます。(続く)

大川 聡子

男子2人を主人に任せ、1泊2日の福島合宿に行ってきました。行程はもちろん新幹線(地元栃木を通るから)。宇都宮を通り過ぎる際に、嬉しくなって実家の母親にメールしたら「帰ってくれば」と返信。福島から実家までは軽く200kmあるけど…。残念ながら実家には帰れずとんぼ返りしたら、男3人仲良くやっていて、母の入る余地はなし。ありがたいような寂しいような。

大谷 多加志

例年、1月から3月だけの期間限定の仕事があります。職場内にある社会福祉士の国家資格取得を目指す養成コースで、

「心理学理論と心理的支援」という枠の講師を務めています。内容的には基礎心理学の部分が多く、過去に学んだ内容とはいえ、普段の仕事とずいぶん趣が違うので、全10回(2コマ連続×10回の合計20コマ分)の内容を整えるのに毎年苦労してきました。それが今年は少し様子が違う。ここまでで6回の講座を終えたのですが、やっていて気づいたのは普段より準備が楽にできていること。手持ちのネタにも余裕があるので、残り時間を見ながら「余裕あるしこれもやってみよう」とか「時間が無いし、こっちは省略!」と進めていくことで時間配分もスムーズになってきました。

少し考えて、うまくいくようになった要因にも気がつきました。読書習慣の変化です。ここ数年、人から紹介された本で、少しでも興味が湧いたものはなるべく購入して手元におくようにしました。必ずしも隔々まで読むわけではないけれども要点は頭に残っているので、授業の準備をしながらふと「あの本、使えるかも」と思いつくことが増えました。この対人援助学マガジンもその1つです。マガジンを書いてこんな役得があるとは思っていませんでしたが、やってきた甲斐があります。みなさんいつもありがとうございます!

竹中 尚文

浄土真宗本願寺派専光寺住職。

この冬、スモーカーを見つけた。ベーコンも作れる大きな薫煙器である。田舎暮らしをいいことに購入して、ベーコン作りを始めた。坊さんがベーコンを作るなんて、やはり私は生臭坊主だ。◆数年前に伯父が亡くなった。伯父も坊さんだった。お寺でお葬式があった。たくさんの坊さんが集まって来た。みんな、ピッカピッカのツルツパゲの坊さんたちだった。その内の一人が、私の座っている処に歩み寄ってきて、尋ねた。「あなたは坊さんか?何宗の坊さんなの?」と。私は、髪の毛はフッサフサだし、口ひげもある。お参り先ではその風貌から「マリオの坊さん」を呼ばれている。その翌年、伯父の法事には来ないでくれと断られた。◆手作りのベーコンは本当に美味しい。生臭坊主と呼ばれても、なかなか

か止められない。

川崎 二三彦

リフォーム問題(1)勃発

ある晴れた日。原稿執筆が行き詰まり、天気はよいのに鬱屈としていたら…。

「近所に新築のモデルハウスが建ったの。散歩がてら見に行かない？」

「何？ こっちはそれどころじゃないんだ」

「だったら気分転換にちょうどいいよ。行こう」

などと言われてフラッと足を運んだのがこの始まりだ。

「ペアガラスは、今では常識ですね」

「ほう、キッチンも変貌してるな」

あれこれ見て回り、説明を聞いているうちに気が変わった。

「うちも改築するか」

さあそうになると忙しい。単身赴任先から戻ってくる度に、最寄りの住宅展示場に足を運んで話を聞く。

「全面リフォームと比べますと、新築費用も大きな開きはないかも知れませんが」

「太陽光発電を設置すれば電気代なんてかかりませんから」

いろいろ聞いているうちに、急速に新築建て替え案が頭をもたげてきた。しかもこの頃は消費税 8%への増税を前にした駆け込み契約が花盛りだったので、営業マンの熱も入る。最初に有力候補となったのはI工務店だ。

「じゃあ、一度プラン図を描いてみましょう」

話が早いじゃないかと思いつつ、期待を込めて届いたプランを見てがっかりした。



「リビングにまともに西日があたるなんて、いやだわ」

次に浮上したのはSハウス。ざっと描いてもらったプランが、我が家の変形土地をうまく活用している。乗り気になったところへ、営業マン氏、

「実は今、私も家を建てていましてね。どうです、一度我が家をご案内しますよ」

などという。早速見学させて貰った。

「気持ちが動きました。さらに検討したいのですが、ただ一つ、このプランには書斎がないんですよ。何とか工夫してください」と頼んで出てきた案にがっかりした。

「おい、これだと書斎たって、形だけじゃないか。ワタクシは一日こもって仕事したいんだ」

「いいじゃないの、これで十分よ」

「馬鹿言え、何千万も出して、どうしてこんな書斎で我慢しなげりやならんのだ。絶対厭だからな」

などと言いながら、ふと昔のことを思い出した。現在の住居を新築したのは平成元年3月。ちょうど消費税3%が始まる直前のことだ。この時も、新築プランではじめにもめた。その焦点が、やはり書斎だったのである。実はこの時の事情を書いた原稿が原作となって、当時発刊されていた「まんが新聞」にマイホーム建築の詳細プロセスを連載していたので、ここではその原稿を、20数年ぶりに引っ張り出してみよう。

*

間取りのプラン、線引きは私の役目である。仕事を終えて家に帰ると、私は大体においてただちに自室に引きこもり、方眼紙を前にあれこれ思案する。ところが、何度も何度も消したり引いたりしながらやっと作り上げた間取りプランを住宅会社の人



に見せると、「悪いですけど、これだと通し柱が入りませんので家が建ちませんわ」などと素っ気無く門前払いされてしまう。設計などというのは簡単なものや、自分の家の間取りぐらい、いっちょ自分でやっ

たろかと考えていた私はまことにおめでたい人間であったというしかない。

ともかく、間取りを考える際のイロハについて多少の知識を得た上で、再検討、再プランニングである。だが悲しいかな、決定的に予算が足りない。何千万という買い物のはずが、何故か五万、十万の金額が無視できぬ大きな負担となって、思うような家にならないのである。

「なんとかこの廊下を取っ払うことはできないものか？」

「ええい、リビングを1帖減らしてしまおう!」

あっちこっち節約し、削る工夫をするのだが、まだまだ知恵が足りない。「うん」とうなっているところへ、妻が現れた。そして図面を見た瞬間、こともなげに言い放つ。

「書斎が邪魔してるのよ。大体モデルハウス見たって書斎のない家はいっぱいあったんだから。書斎、書斎と贅沢やわ!」

私はこれを聞いて激怒する。

「馬鹿もん! この蔵書をどうするつもりや!」

「あっそう。私前から思ってたんや、何の役にも立たへん本なんて処分してしまえら？」

「うるさい! はよ寝てまえ! もうおまえとは一緒に部屋では寝んからな!!」

*

どうも、四半世紀を経ても夫婦の関係には何の進歩もないらしい。それはともかく、Sハウスが脱落して最後に残ったのがS林業である。今度は書斎の要求もあらかじめ伝え、我が家にふさわしい間取りを考えて貰う。

「変形土地とお聞きしましたので、今日はうちの設計担当のトップも同席させました」

向こうさんも力が入っていたからだろう、アイデアが詰まったプラン図ができあがってきた。

「これ、なかなかいいですね」

「そうですか。喜んでいただけたなら、私も嬉しいです」

こっちも乗り気になって、さらにあちこちの現場を案内して貰う。一方、営業マン氏

はすでに法務局にも足を運んで土地の形状なども把握し、測量チームとともに我が家にやって来て地盤の堅さや土地の広さなどの測量も済ませてしまう。プラン図だって、こちらの要望をふまえて更新されていくので、かなり気持ちが傾いた。それを待ち構えていたかのように、

「実は今度、うちの会社が大规模フェアを開催します。そちらに来ていただけませんか。昼食も H ホテルでご用意しますから。いえいえ、契約とは関係ありません。フェアに参加された方には皆さん召し上がって貰っていますので」

こんな言葉につられて、我々夫婦はこのこ出かけていった。一流ホテルの豪華な昼食をいただき、そのあとは相談会である。

「残念ながら、今からですと消費税増税前の引き渡しには間に合いません。でも、会社と掛け合って、販売促進のために社の中で優先的に〇〇万円を値引きする方を選ばせて貰いました」

こっちはほぼその気になっているので、一気に仮契約を果たしたのであった。

「ご主人様は単身赴任とお聞きましたので、京都にお戻りになれる度に詳しいプランのご相談をさせて下さい。うちも横浜に支店がありますから、場合によっては伺うこともできます。ええ、諸般の事情から、それほど時間的余裕がないので、プラン確定までは少し集中的にお時間をいただければと考えています」

そして 1 週間後、本契約を交わすこととなった。のだが私には少しずつ、ある一つの懸念が膨らんできていた。

「ちょっとな、やばいんだ」

「何が？」



「あのな、これまで住宅問題にどれだけ

の時間をつぎ込んだと思う？ おかげで×切原稿は滞り、仕事が回らなくなってきてるんや。ここで本契約すれば、毎週毎週京都に戻ってきては、ものすごい時間を使うんやで」

この話、何の同情も得られなかったものの、相方には別のことが気になっていたらしい。

「そうねえ、プラン図が出る度に金額が上がってるでしょ。こっちが注文したんだから仕方ないにしても、家計は大丈夫かしら」

こんなすれ違いの話し合いの末、翌週、本契約のための分厚い書類を積み上げた営業マン氏の前に座った我々は、お詫びのしるしに和菓子を置いて、そそくさと退散したのであった。

S 林業の I さん、あなたの努力で私たちもその気になってしまいました。こんな結果になってお許し下さい。（つづく）

（2014/02/28 記）

荒木 晃子

「母へ」

私事ではあるが、前 15 号で連載が完結し、今号からの新連載スタートまでの間に、大きな喪失体験があった。前述の著書「A 子と不妊治療」にも登場した、入院中の母を天国に見送った経験である。

長年連れ添ったパートナー（筆者の父）を亡くし、失意を皮切りに徐々に母の認知症は進んだ。時期を同じくして、その症状の裏で進行していた進行性核上性麻痺という進行性神経難病疾患の発症から現在までに、約 5 年が過ぎた。当初は外泊で自宅に帰った折、外出はままならないまでも、母娘でゆるりと過ごした時間がいまは懐かしい。3 年前のお正月には、呼吸が一時止まり、危篤の宣告を受けたこともある。それ以来、一切の経口摂取が不可能になり、点滴だけが母の命をつなぐ生命線となっていた。

かつて、両親がまだ元気な折、家族会議（といっても 3 人家族）で聞いた、「人工呼吸器や胃ろうなどの延命治療は一切いらない」という両親のリビングウィル。ふたりとも、一人娘の私に向かって「娘に任せ

るから心配ないわ！」と陽気に笑っていた。

母の病気の性質上、徐々に身体機能の麻痺が進み、初めに手が、次に足が、そして一年ほど前には、全身が硬直し、声を出すことができなくなっていた。耳の聞こえる母との唯一のコミュニケーションは、母の目の動き。片目の視力は失っていたようだったが、傍に付き添う私を追う母のまなざしは、いつものようにあたたかかった。

母の声を聴くことができなくなった娘の私にできたこと— それは、語りかけること。何を話しても返事は返ってこないけれど、ただ日常のことを、これまでもそうだったように、「あのね、それでね」と子どもの頃のように話し続けた。いつも、母はうれしそうに聞いていた。そう、かつてのように。娘の私にはわかるのだ。

母が天国に旅立つ日。連絡を受け、予定をすべてキャンセルして母の待つ病院へ駆けつけた。ベッドサイドからみた母の心拍は落ち、呼吸もこれまでになく小さかった。それなのに母は、両目をパッチリ見開き、これまでピクリとも動かさなかったほほを緩ませ、私に笑いかけてくれた。

「お母さん、私にありがとうって言っているんでしょ？今までありがとうって。」私がこれまで口にしてはいけなそう思っていた言葉を告げた。すると母は、さらにほほを緩め、動くはずのない体で“こくん”とうなずいたのだ。「お母さん、大好き！」そう言って小さくなった母を抱いた。そう、昔、母が私にしてくれたように。お母さん、お母さんと何度もつぶやきながら抱き続けた。

私は、ずっと母のようにになりたいと願い続けていた。私の母のような母親に。

私の願いはかなわなかったけれど、あの母の娘でいられたことが、何よりの幸せだった。

ありがとう、お母さん。私のお母さん。

尾上 明代

相変わらず多忙な毎日を送っています。どの仕事も一つ一つ集中して真剣にやりますが、当然、忙しいときほど効果的な息

抜きが大切です。

先日、本当に久しぶりに(何年ぶりかな・)カラオケに行って、友人たちと1時間半、歌い続けました。先月の大雪で懐かしく思い出したドリカムの Winter Song、チャゲアスの Yah Yah Yah でスッキリ(古い!)

バリ島の雰囲気 で演出されている、東京・池袋のお店。バリの民族アイテムに囲まれてリラックスでき、私の好みの空間でした。ウィークデイの昼間でも、お客さんは次々来ていたので(自分たちのことは棚に上げて)びっくりしました。このカラオケチェーンを展開している会社は CSR の一貫として、一人親家庭、また病気や障がいをもつ子どもたちを、素敵なリゾートホテルに毎年招待するなど、さまざまな形で子どもたちを応援する活動を行なっています。実は、この会社とは別の接点があり、いつもお世話になっているのです。このカラオケ店がいつも気になっていたのも、今回、思い立って行ってみました。

木村 晃子

2年ぶりに生まれ故郷を訪れる機会に恵まれた。ご縁があって研修の講師として招かれたのだ。故郷を離れて35年が経ち、当時は祖父母や親戚もいたのだが、今は幼馴染が一人いるだけで付き合いの続いている人はいなかった。地方紙の連載や Facebook が出会いのきっかけとなり、その糸が私の過去とつながっていることがわかった。研修主催者の方をお願いして、当時高校教員をしていた父の教え子に会いたいと申し出た。願いは快く受けていただくことになり、研修後の懇親会で父の教え子とは実に40年ぶり近い再会となった。当時の思い出を覚えてもらい(私の記憶はとこどころ抜けている)、懐かしさだけではなく、私たち家族を記憶してくれている存在に大きな力をもらった。

翌日には、その町の首長さんに紹介された。「〇〇先生(私の旧姓)の娘さんです。」と紹介されると、その場にいた父を知る当時の高校生は「ゲーテ!!」と口を揃えて顔を見合わせた。ゲーテというのは、父のあだ名だった。大学卒業後39歳の年まで赴任した先の生徒の記憶にあだ

名で残る父の存在を感じた瞬間だった。

誰かの記憶に残る仕事の仕方、そして、その場にならず居続ける人があって、記憶に残されていく出来事、を実感した。ここにも「継続」の意味と価値を改めて思う。

残念ながらこの生まれ故郷から出た後の土地には、こんなにも私たち家族を記憶してくれる存在はいない。

誰かの家族の物語を記憶する、そのことに支えられて生きていけることもある、常日頃学んでいることが私の中でつながった。

北海道 当別町 普段はケアマネジャーとして高齢者支援をしています。

藤 信子

この間の日曜の朝、少し時間があつたので、JR 四谷駅から四谷 4 丁目まで歩いた。会議の開催される場所は四谷 4 丁目なのだけれど、その日は地下鉄を乗り換えるのが面倒に思えたのだった。考えてみるとその道を歩いた事は、ずいぶん昔にあつたような気がするけれど景色には覚えがない。そして東京の道路のことを全くわかっていないことに気が付いた。あまり知らない町は、普通は行く前に地図を見て、検討をつけながら行くのだけれど、東京は地下鉄や電車の路線図を見て動くことが多く、道路を知らないことに気が付いた。

その日は東京マラソンの日だったので、車の規制があつたりして静かだったし、気のせいか排気ガスも少ないような気がした。10分ほど歩きながら、そろそろ4丁目に近いのではないかと、思った時に見覚えのある色の四谷消防署の建物が見えた。これは建物の色でそうだと分かったので、建物全体を遠くから見ると、あんな形をしていたのか、と思った。いつもはすぐそばで見ると、建物の上の方の形は分からなかったのだ。いつもと違う視点と言うには大げさだけれど、新鮮な体験をしたような気分だった。

水野 スウ

「100人の声・命を読む」という朗読公演

が、3月初めの金沢で今年もひらかれます。小学生から大のおとなまで、一人ひとりの違う声で読む、宮沢賢治や室生犀星、特攻隊員の遺書、被爆証言、原爆詩、福島島の詩人の作品や被災された人の詩、美輪明宏や長渕剛の歌詞や、柴田トヨさんの詩、そして自作品の朗読など。

今回で第3回となる「100人の声」は、一人で読む人、グループで読む人、その数あわせて、実際には110人。全員が読み終わるのにおよそ6時間はかかるという、一大朗読会。東日本大震災発生後の午後2時46分には、会場で黙祷します。

おととしは聴き手として会場にいた私も、今年からはじめて読み人として、その日の10分の1の声になり、憲法13条のうた「ほかの誰とも」の手紙かき起こしを朗読します。憲法21条にも保証されている表現の自由を実践すべく、今の政府に対して思うきもちだつて、きちんと自分で表さなくちゃ、と思うから。

100人を超す参加者をコーディネートして、一つの朗読公演にしていくのは、金沢の朗読小屋・浅野川倶楽部のTさん。こういう「一人」が、「百人」を繋いでいく。「一人」にできることはそれぞれ違うけど、そのちからは、決してちいさくなんかなく思っています。

一人からはじめること、一人からはじめること。後に、おおきなうんどう＝movement とよばれるものだつて、はじめは一人からだつたことを思う時、そこに私は希望と勇気を見いだすのです。

早樫 一男

52歳で亡くなった父親の年齢を10年も超えました。さらに10年、引き続き、楽しく過ごせればと考えています。

ところで、3月末で、予定通り、3年間の大学教員生活は一区切り。この3年間、「ジェノグラム」「家族造形法」を通して、さまざまな出会いがあつたことに改めて感謝です。

4月からは新しいステージに立つことになります。「ジェノグラム」「家族造形法」は引き続き発信していきたいと考えています。よろしく!

西川 友里

いくつかの学校で福祉系対人援助職を養成する仕事をしています。

年度末になると毎年思い出すことがあります。

児童養護施設職員をしていた2年目の3月、直属の上司が退職することになりました。

退職の記念に、といただいたボールペんに、ちいさなふせん紙が。

「もっと自分を出してごらん。そしたらもっと楽しくなるよ。〇〇より。」

ひとこと、それだけ書いてありました。

自分を出すってどういう意味なんやろ？いただいた当時は全然意味が分かりませんでした。

でも、たしかに自分の動き方がよくわからないまま、もがいていた時期でした。

「自分の好きなように動くということは、責任が発生すること。

その責任を引き受けるつもりでいれば、好きなことやっちゃえるんだよ。」

今はそう解釈しています。

何をどうすればいいかわからなくて、まわりの顔色ばかりうかがっていた日々を、少し客観的に見られるようになってきているように思います。

今年の年度末は、仕事上の別れと出会いが多くあります。周囲の環境がどうなっても、自分はどうありたいのか、ちゃんと分かっているようにしたいと思います。

中島 弘美

ケーキ、クリームパン、みたらしだんご、おぜんざい。とにかく私は甘いもの好きです。自分へのご褒美！気分転換をするため！何かと理由をつけては食する日々です。

先日「^{こや}阪神昆陽のパン屋さん」のマドレーヌを届けてくださいました。レモンの香りがほのかにして、味わっているうちに顔がほころびます！そしてどこかなつかしい味です。

それもそのはず、子どものころからのなじみの洋菓子店「エーデルワイス」のレシ

ピで作られたものでした。いまではエーデルワイスという会社名よりもデパートに店舗している「ANTENOR アンテノール」や「WITTAMER ヴィタメール」のブランド名のほうが有名かもしれません。多くのパティシエを育てているそのケーキ会社の相談役から直々に指導を受けて作った焼き菓子だと聞かされました。

手土産やちょっとしたプレゼントにしたの？と思い、「どこに行ったら購入できるの？」とあらためてたずねました。

3個入りで150円です。値段を知って、ますますテンションがあがります。ただし不定期に作られていて、年に数回しか手に入らない「レアもの」だということもわかりました。

このマドレーヌは、生徒さんたちがパティシエから習い、学校で作ったものだったのです。こんなにおいしいお菓子をつくっているのだから、もっと多くの人に知ってもらえるにはどうしたらいいかな？と心が動きました。

対人援助学会の年次大会でみなさんにご紹介するチャンスはないかな？この焼き菓子づくりを教材にして大学の授業に取り入れると課題解決の学びにつながるかな？

いつもは甘いものをいただく、おいしかった～で完結ですが、このマドレーヌからはこの先をどう描くかのテーマも受け取りました。



製造者：兵庫県立阪神昆陽（こや）特別支援学校 食品加工・農園等コース

浦田雅夫

みなさま、今回は勝手ながら一休みさせていただきました。提出日が迫った課題を出せない学生の気持ちを体験するた

めではありません。ただただ、私の不徳の致すところですが、これも、ちょっと休みなさいというメッセージだと肯定的に勝手に解釈しています。昨年末に、保育出版社から「知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉」というテキストにかかわらせていただきました。どうぞ高覧のうえ、ご助言ください。

坊 隆史

大阪・梅田で外国人に英語で道を尋ねられた。現在地と目的地は中心部を挟んで反対側。元々土地勘がない上に一見さんを惑わす梅田の地下街を説明する必要がある。「well…えーあーwell…」いきなりの課題に難儀していると、その人は何も言わず私の元を離れ別の人に声をかけ始めた。せめて thank you くらい言ってよ、と思いつつ自らの語学力と危機予測力の低さを痛感した。何かと精進あるのみである。

松本 健輔

カウンセリングルーム HummingBird 主宰
<http://www.hummingbird-cr.com>

今まで入院していた祖父がいよいよということで、帰って来て欲しいと実家から連絡があった。妻の仕事が忙しかつたので、1歳の息子と二人での帰省になった。1歳の息子にとって初めて母親と離れての泊まりがけの遠出。もちろん自分にとっても初めての経験。ぐずる子どもを新幹線に乗せて、実家に帰り、病院に行き、帰ってご飯を食べさせお風呂に入れ、寝かせる。一つ一つは初めてではなかったが全部通して1人でやったのは初めて。運が悪いことに大阪に戻る日は大雪でダイヤが乱れ、新幹線の中で息子とすし詰め。くたくたになって大阪に戻って来ると、ふと息子との距離が変わった気がした。ほんの少しだけ父親に近づいたのかもしれない。

大阪に戻って来た二日後、祖父が亡くなった。1歳のこの時期に息子との貴重な旅を経験させてくれた祖父に感謝をしなければ。そして最後にひ孫の顔を見てもらえて本当によかった。

牛若 孝治

「挨拶のできない人には仕事を頼まない！」

先日、役所に行ったときのこと。受付で A 部署への案内をお願いした際、受付の方が A 部署の担当者に連絡してくれたところまではよかった。ところが、A 部署の担当者の B は、受付で私を見つけるなり、「何か用ですか？」というぞんざいな言い方。頭にきた私は彼にいきなりこう言い放った。「朝だったので）あな、おはようございます」の一言も言えないのか！すると彼は少々おびえたような口調で、「たいへん失礼いたしました」と言った。それでも収まりがつかなかった私、受付の方と A 部署の彼のいる方向に交互に顔を向けながら行った。「時候の挨拶のできないあなたには仕事を頼みません。誰か別の、つまり、時候の挨拶のできる人と交代してください」

最近、時候の挨拶のできない人が増えている。この社会では、「ありがとう」、「ごめんなさい」を言うことに重点が置かれているようだが、それは少々言えなくてもいい。だが、時候の挨拶のできないということは、仕事ができないのと同じ。自分に仕事を任せてほしいなら、まずはしっかりと時候の挨拶をすることが必要だ。

袴田 洋子

元旦が終わりました。父親母親が元気でほっとしました。その「ほっ」は、彼らの健康そのものに「ほっ」としたのか、一人娘の自分が、まだ介護にひきずりこまれないで済むことに「ほっ」としたのか、おそらく両方なのでしょうが、とりあえず、一年に一度の大きな山を越えられたことを言語化してみました。言語化になっていないような気もしますが。

団 遊

www.danasobu.com

今さらながら「24」を見ている。スマホを iPhone に変えたら、「D ビデオ」というのに加入させられて(その方が得ですよ、

という意味不明なトークに乗っかる)、せっかくだからどんなものがあるのか見てみようというリストを見ていたら、むかし流行った「24」のシリーズがあって、試しに一話見てみたら、んもう、エラはまり。おかげで毎日、潜入捜査官気分です。シリーズが8本であるそうで、都合 8×24 時間=192 時間もあつた！ 映画 100 本分くらいだ。今年一杯かかりそうだな…。

乾 明紀

大学に勤めて 20 年以上が経ちますが、来年度から初めて学科に所属することになります。

これまでは、職員として事務局に約 10 年、大学コンソーシアム京都に 4 年、教員・研究職としてセンターに計 4 年、研究機構に 2 年いましたが、やっと学科というものに所属します。大学に勤めて約 20 年ですが、ほとんどの組織や身分を経験した自分にびっくりです(笑)これから先も大学にいると思うのですが、ここまできたいろいろな経験をしてみようと思います。

サトウタツヤ

★2014 年 2 月某日

今年は TEA(複線径路等至性アプローチ)が始まって 10 年の記念すべき年。2004 年に Jaan Valsiner が立命館大学で講義やシンポジウムを行った年、特に 1 月 25 日が、TEA 発祥の日だと言っても良いと思います。それから 10 年、この方法論が皆に支えられて大きくなってきたことは大変ありがたいことでした。それを記念して、というわけでもないですが、現在『ワードマップ TEA(複線径路等至性アプローチ)』新曜社の出版を準備中です。過日、その執筆研究会を福島で行いました。

研究会は、多様な発表が切れ目なくあり、充実した機会となりました。福島初訪問という方も多く、「福島に多くの人に来てもらう」という目的も達せられたように思います。

★2014 年 3 月某日

高校の同窓会がありました。横浜の中華街が会場。250 名集まったのですが、喋る、食べない、飲まない、で大量に飲食物

が余ってました。私は今、半分教師みたいなことをしていますが、過去の「生徒・学生」だった自分を思い出すと大変恥ずかしい気持ちになります。「おまえが大学教授か！」と絶句なのか感激なのか声をかけられたり、「あきらめずによかったな！」と言ってくれた恩師までいたりして複雑な気持ちです。数名お会いした恩師には当時



のふるまいを謝っておきました。1 年の時一緒だった友達の 1 人にも「1 年 4 組はタツヤと A と B と C で評判を落としていた！…」と言われたりしました。てへぺろ(死語)です。2、3 年の 2 年間クラスが一緒だった複数の友達に「おまえはいつも * * * って言ってたよな！」などと言われたりして、自分も忘れていたことを思い出させられたりして、これまた、てへぺろです。* * * はあまりに恥はずかしすぎて到底書くことはできません！！

同窓会で面白いのは、いろんな年齢の人がいるなあってことです。ってモチロン「いろんな年齢に見える人がいるなあ」ということです。参加者を見てみると、穏やかに年をとって、まさに 50 歳の人、年よりも老けちゃったなあ 60 歳？という人、何も苦労してないでしょう！と言いたいような 40 歳の人、いろいろでした。平均すれば 50 歳、というところでメデタシめでたし。年齢を聞かなくて良いのが(特に女性に聞かなくて良いのが)同窓会の良いところです。

次の写真は、フェンシング部で苦楽を共にした仲間たちと再会のシーン。手を前に出したポーズで「オンガード！」していると。この連中とは、高校卒業後、数年間は高校生の指導(シゴキとも言う)で一緒だったので、会ってないことはないのですが、それでも懐かしい。



会った中で一番驚いたのが、某大学院で臨床心理学の勉強をしている元同級生がいたこと。高校のとき3年間クラスが一緒だった女性。こともあろうに私が書いた本(『流れを読む心理学史』なのか『心理学・入門』なのか)を使った授業を受けているそうです。なお、彼女が授業でプレゼン発表をする時があったそうですが、その最後に私の高校時代の写真を披露して、ウケを取ったと言っていました。これまた恥ずかしいですが、奇縁といえば奇縁です。。。次の写真は、その H(旧姓)さんと私。この写真もきつと授業のネタにしてくれることでしよう。



それにしても、250名をこえる人を集めて、当日も切り盛りしていた幹事のみなさん、ご苦労様でした。ありがとうございました！

★2014年3月某日

新学術領域「法と人間科学」の企画で模擬裁判があり、その記念講演として原田 園男先生(元裁判官)のお話を聞いた。その中で「刑事裁判は白か黒かを定める手続ではない。黒か灰色かを定める手続である」というフレーズに接した。そこを起点に考えてみる。

言うまでもなく、このフレーズは「合理的な疑いが残る場合は、いくら怪しいと思っても無罪にすべき」という刑事裁判の原則に関するフレーズである。多くの人は白ではなく灰色なら有罪としがちであるのに対

して、黒か灰色かの区別が重要だということを経験的に表現したものである。

裁判は黒か灰色かを判断するもので、灰色なら無罪、というのは、大変わかりやすいと感じた。その一方、黒と灰色の弁別という問題を提起しているとも感じた。黒と灰色が一種の連続体であるとするなら、どこが灰色の境目になるのか、というのが問題となる。

絵の具の例で考えてみよう。黒の中に白が入る。入る瞬間は白が見えても黒に飲み込まれてしまえば、灰色にさえ見えなかもしれない。この時、問題になるのは、黒の量と白の量の比率である。もともと、どれくらいの量の黒があり、そこにどれくらいの白が入ったのか、ということである。白が一滴入るその瞬間は白が見えても、すぐに黒の中に飲み込まれてしまうかもしれない。そうすると灰色には見えないだろう。

「裁判は黒か灰色かを定めるという手続だ」というのは確かに分かりやすいが、それを実際の裁判に活かすには少し工夫が必要かもしれない。比喩にすぎないのだから、分かりやすくても実用しにくいというのは当然だという考えもありえるが、どうすればこの比喩を活用できるか考えることにも意味はあるだろう。どれくらいの黒の量があり、そこにどれくらいの白が入れば、灰色になるのか、こうしたことを考えて、黒を灰色として認識してもらえるような弁護が必要なのかもしれない。

逆にいえば、最初の段階でどれくらいの量の黒があり、それとの関係でどれくらいの白を混ぜれば灰色になるということが分かるのであれば、弁護活動にも役立つかもしれない。

「合理的な疑いが残る場合は、いくら怪しいと思っても無罪にすべき」ということの意味は、黒の中に入る次の一滴が白だったら、それは無罪なのだ、という意味だとする、というのも一つの考えであろう。

たとえば、碁盤の一面に黒の碁石が並べられているとして、そこに一つ白の碁石が混ざるとしよう。この場合は白を否定することはできず、黒は打ち破られる。碁盤は平面である。ちなみに、碁盤がオセロだ

ったらどうか。オセロなら白が一つ入ること、パタパタと白になることもあるだろう。そういうダイナミックなプロセスも考えられるかもしれない。

いろいろなことを考えさせられた講演であった。

<http://www.k2.dion.ne.jp/~kokoro/TEM/watistem.html>

大野 睦

まだまだ寒い日が続きますが、屋久島ではもう満開の桜も見られ、少しずつ春が近づいてきているようです。

昨年11月に香港で開催された国際会議の発表内容は香港で冊子として発刊される見込みとなりました。

また、今月からは九州王国にも寄稿することになり、合わせて私の人生の基本となっているウミガメのことも屋久島ウミガメ館の代表理事に就任いたしました。

人生40歳から、と誰かが言っておりましたがどうやら今年は本当に正念場ようです。多くの方と出会い、さらに成長したいと思います。

ネイチャーガイド 有限会社ネイティブビジョン
代表取締役 屋久島青年会議所 副理事長
BLOG やくしまに暮らして

<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>

中村 周平

先日、京都市のある公立中学校でお話をさせていただく機会がありました。その中学校にもラグビー部が存在し、偶然にも、指導者の方は中学校の頃から面識のある方でした。しばらく昔話に花を咲かせながら、懐かしい想いに浸っていました。

その話の中で「**春になったらぜひウチの芝生を見に来てよ**」と言われたのです。芝生のグラウンドで練習することの重要性を感じられたこの指導者の方は、単身鳥取で天然芝の育成の方法を学び、ここ京都で、しかも勤務先の学校でその知識を活かそうと考えられました。そして、その熱意はどうとう学校まで動かしてしまいました。現在は、NPO 団体の協力を得て、年3回の種まきと、一日3時間の水やりを行な

っておられます。

後日、その先生がラグビー雑誌に取り上げられた記事を読ませていただきました。芝生のグラウンドで練習することで、選手のスキルや安全性の向上につながっただけでなく、子どもたちが種まきや水やりを手伝い、自分たちの学校を大切にしようとする「スクールアイデンティティ」が芽生えてきていると。「芝生のグラウンド」を作られたことは、それを使って練習する選手だけでなく、周囲に様々な影響を与え、変化が生まれているようです。

浅田 英輔

言葉に含まれる意味のことを考える。ニュートラルな言葉にも、いろいろな意味付けがされている。「なぜ学校にいかないの?」という質問は、文字面だけで考えると「学校に行かない理由を述べよ」というものである。でも、この言葉が発せられるたいていの場面では、「行くのが当たり前なんだから学校に行け」というメッセージが含まれているのではないかと。言う側がそう思っていないくとも、聞く側が「学校に行っていないから責められているんだな」と感じることもあるだろう。我々の文化はこういった「察すること」でできているし、それで助かってる場面も多い。でも、対人援助を職業としている者が、相談に来ている人に対して「察しろよ」というのはイカンと思う。(そういう自分も見落としてる場面がたくさんあるが…) うまく通じなかったら、どういう言い方がいいのか、比喻を使えばいいのか、そもそも通じる必要があるのか、などなど考える。「わからないほうがわるい」と思うのは怠慢だと思うのだ。自戒を込めて。

脇野千恵

新しい年を迎え、さて4月から何をしたいのかと思うこの頃です。対人援助学マガジンへの投稿は、今回11回目になりました。実は、今回を区切りに行こうと考えています。どのような方が、どの程度読んでいただいているのか、少々気になりますが、こういう機会をいただいたことに、改めて感謝いたします。ありがとうございました。

ました。また、対人援助学マガジンを時々には読ませていただき、様々な分野での出来事に触れていきたいと思っています。

さて、相変わらず専門とする研究分野での企画やら研修に忙しい毎日を送っています。その一つに、10年ぶりに沖縄での研修を企画したことです。「標的の村」というドキュメント映画を観たこともきっかけになりました。現地には赴かないと本土との温度差は埋められません。3月末、沖縄の子どもたちについて学んでくるつもりです。

中村 正

オックスフォード大学 Oxford University を訪れた。児童福祉にかかわるイギリス調査の一日をさいてでかけたロンドン郊外へのショートツアーの一環だ。二回目である。2年前の前回は、Educating Leaders for Eight Hundreds Years. (「リーダーを育て続けて 800 年。’)という大学のメッセージのスケールの大きさに驚かしたことを思い出した。もちろんそこまでいなくても、大学に勤めていると日々いろんな知的刺激やそれを体現する人々との出会いもあり、臨床の現場にでかけてもそれを言葉にして思考することもできるので、ありがたいと思うことが多い。海外の調査もできるし、本も読める。自由な発想で思考し、表現することができる。大学がなければここまで私は生きて来ることができなかつたと思っているので、つくづく人類は大学という貴重な制度をよくぞ創ってくれたものだと思嘆している。だから大学のもつ可能性を最大限に社会のなかに環流させたいと考えて、このマガジンの母体となっている対人援助学会やそこに連なる大学院をつくってきた。しかし社会のなかで活躍する人たちにとって大学のあり方はまだまだ閉鎖的だ。できればもっと斬新な発想で大学を解放したいと思っている。3月には教員にとっては感慨深い。教え子たちが卒業する。確実に成長している。卒業生も時々話しに来るが、会うたびに成長している。教え子をはじめとした卒業生やこのマガジンでであった人たちが自ら共に学びながら続く人々を教えていけるような循

環ができればいいと思う。普通の教授にはもう飽きた。卒業生やマガジンに連載の実践者たちを専門客員教員や市民研究員として大学の解放に貢献してもらい、そんな仕組みを次の10年でつくることとしたい。大学でしか生きていきいけないなと思いつつ社会に就職していく教え子たちを励ますことの内なる矛盾こそが大学を解放したいと思う私のエネルギーだ。次の秘策をいくつかたてている。やはり旅は計画している時が一番面白い。ロンドン調査が終わってしまったのでいまは次の予定のアラブ首長国連邦をあれこれ夢想している。面白い大学創造のためにはいろんな価値観に学ぶ方がいいと思うからである。

